


はたらきかた 改革通信 2024 No.5

教職員の働きがいを高める取組について

第4回働き方改革シェアミーティングより

今年度最後の「働き方改革シェアミーティング」では、ワーク・エンゲイジメントにかかわって「教職員のやりがいを高めるために」というテーマで話し合いました。参加者数は、市町村教委、小学校、中学校、県教職員組合の皆さまを合わせて32名でした。以下話し合われた内容から主なものを抜粋しました。各校で参考になる事例があれば、取り入れてみてはいかがでしょうか。

項目	内容
研修会や諸会合	<ul style="list-style-type: none">・職員会や教務会で、定期的にフリートークや雑談タイムを実施・職員の得意分野を生かした校内研修の実施・年度末の係反省をなくして、次年度プロジェクトの時間を確保
管理職の関わり	<ul style="list-style-type: none">・勤務時間の割り振りを取得してもらうように、呼びかけを継続・新しいことに挑戦し、成功体験を積む環境づくり・職員みんなで「やってみよう」を合言葉に・「ありがとう」「さすがだね」など日常的な賞賛等の声かけ 
校務分掌や日課の見直し	<ul style="list-style-type: none">・校務の精選や適材適所、本人の得意を生かした校務に携われるよう配慮・日直当番の学校巡視をやめ、室管理責任者が担当場所の管理をする体制に変更・空き時間を揃え、新任職員を1年間継続してサポート

【アドバイザーのお二人から】

- ・職員同士の**関係性**や**同僚性**を大切にすることは、先生たちの孤立を防ぐことにつながる
- ・「**やってみよう**」がキーワード。実際にやってみるとそれほど大きな問題にはならないことがほとんど。**チャレンジ**してみるものが大切
- ・教職員が安心して働けるために、**ボトムアップ**的なアイデア出しと、管理職の**リーダーシップ**の両方が必要



妹尾先生より



荒井先生より

- ・働き方改革の視点として、教職員の「**贅肉**」をそぎ落とす（時間縮減）だけでなく、「**筋肉**」をつける（本来業務の充実）ことを同時に行うことが大切
- ・仕事がうまくいくチームは、「**心理的安全性**」が高い
- ・心理的安全性とは、「メンバーの発言量がほぼ同じ」「お互いの感情や考えを察する力（感受性）が高い状態」をいう
- 自分の意見を笑われない、拒絶されない、罰を受けない、リーダーから叱られない

自動採点システム 使ってみての感想を聞きました！

最近いろいろところで耳にする自動採点システムですが、高校入試の採点にも一部導入されることが決まり、さらに注目を集めています。県内では、千曲市を始めいくつかの市町村で導入をしたり、検討をしたりしているようです。そこで、昨年度途中からの試行期間を経て導入をしている千曲市の2つの中学校を取材し、使ってみての感想などをお聞きました。

システムの機能

●●導入までの経緯●●

- 令和5年度に市教委主催の研修会を開き、市内4中学校の教科主任が参加
- 研修参加者から導入を希望する声多数
- 令和5年度に試行導入開始
- 令和6年度予算で市内4校に導入を決定

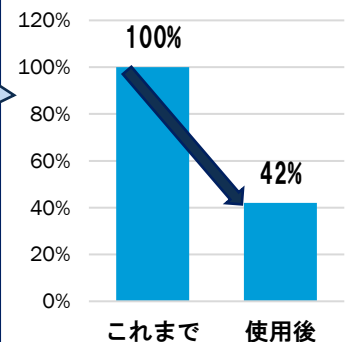
- ・解答用紙をスキャナーで読み取りPDF化
- ・記号問題なら、予め正答例を読み込んでおけば、自動で○✓を記入
- ・単語や記述問題は、全員の解答を一覧で見られるため、正誤を素早く判断
- ・一問単位で、知識/技能、思考/判断/表現力などの分野設定と集計が可能

●●使ってみての感想●● 採点時間が半減

- ・時間的にはこれまでの50%程度になりました。(3時間かかっていた採点が1.5時間に)
- ・英語科では、英単語も自動採点してくれるため、時間縮減につながっています。英単語テストにも活用しています。
- ・採点の基準を作ったり条件を設定したりするのに多少時間はかかりますが、一度設定してしまえば、採点は楽に進められます。

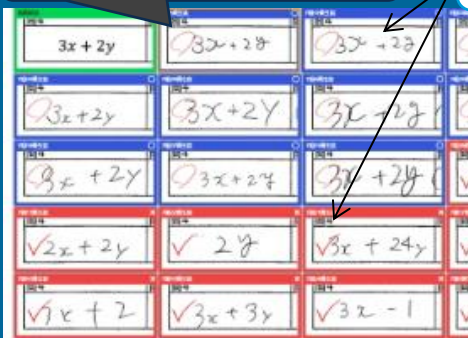
時間縮減割合

※2校9名の平均値



採点ミスが減少

正解と不正解が色別に表示される



- ・クラス全員の解答を見比べながら採点できるので、正解に必要な語句の有無などが瞬時に見分けられ、採点ミスが少なくなりました。
- ・問題によって採点者を分担する等、教科内で採点方法を工夫しています。採点基準のブレも少なくなりました。
- ・生徒の解答が、正解と不正解に分類され、一覧に表示されるので、問題ごとの正答率や誤答の傾向が分析しやすく、指導の改善につなげやすくなります。

千曲市では、導入を推進する市指導主事(現市内中学校教員)が、導入時の不安を取り除けるように、各校を訪問して研修会を開いたり、個別に支援をしたりしてきたそうです。そうした支援の成果もあって、今回取材させていただいた2校の先生方からは、自動採点システムに関して概ね肯定的な声が聞かれました。県教委では、今後も県内でシステムを導入している市町村や学校の実態を調査し、良さや課題等についてお伝えしていきたいと思ひます。



こんな時代だから、ワクワクしたい!!
これからの目指す姿
個人と社会の
ウェルビーイングの
実現

<お問合せ先>

長野県教育委員会事務局義務教育課(担当:鈴木、藤木)

電話 026-235-7426 Mail: gimukyo@pref.nagano.lg.jp

こちらから、過去の通信や勤務時間調査の結果などをご覧いただくことができます!

